

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31年 3月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500273		
法人名	社会福祉法人 呉ハレルヤ会		
事業所名	グループホーム ベたにあ		
所在地	広島県呉市中通四丁目9番17号 (電話) (0823)32-5985		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500273-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成31年3月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所は、認知症の進行を緩やかにする為、下記のサービスにこだわっています。</p> <ul style="list-style-type: none">・「尊厳を守る介護」を行う為、「です・ます調」の丁寧語を使用すること、また「不適切な言葉遣いマニュアル」を作成し、否定形や命令的な言葉等を使用することがないように意識し、日々のケアに取り組んでいます。・認知症高齢者に共感し、評価することなくありのままを受入れる「バリデーション」（共感・傾聴技法）を学び、知識や技術を認知症高齢者のケアへ活かしています。・呉市の中心地である立地の良さを活かして、買い物や散歩、夏祭りへの参加等、積極的に外出を支援します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>交通至便な呉の中心街にあり日常的な散歩や買い物はもとより、夏祭りなどの季節行事に参加し地域と共にある関係性を継続しつつ利用者の穏やかな生活を育んでいる。昨夏の災害時には、いち早く施設の浴室を開放して無料で入浴支援を実施し、支援物資の支援基地としても地域貢献に努めチームで救援に臨んだ。利用者の思いを受け入れ共感するバリデーション療法に注力し、セラピー効果のあるグループバリデーションでは参加者それぞれに役割を持ち、やりがいや楽しみにつなげる目的のもと利用者・職員で取り組んでいる。一人ひとりの有する能力を活かしより良く暮らす方向性を見極め、地域の幼稚園や児童福祉施設との自然な交流・その人に合わせた支援方法など創意工夫を重ねチームケアの向上や地域の活性化に向け尽力している事業所である。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(グループホーム ベたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」という法人理念を実行する為、定期的なミーティングや法人全体の内部研修会等で共有している。又、ケアに迷った時は、チームで理念に立ち返り話し合っている。職員は、裏面に法人理念を記載した名札を身につけており、朝礼において、皆で唱えている。	法人理念のマインドやスタンスが活かされた利用者のより良い暮らし方について話し合い、職員間で常に向上心を持ち支援に取り組んでいる。利用者やスタッフの意見を取り入れた半期目標を掲げ、検証や振り返りを行ない日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くの商店街への買い物や散歩、地域の祭りの参加や見学、地域の方が出展している作品展等、積極的に外出しており、地域の方との会話が交わされている。又、地域の幼稚園児が敬老の日やハロウィンの時期に来所し、歌や踊りを披露したり、入居者から歌や手芸作品をプレゼントした交流や、クリスマスに児童養護施設の子供達がキャロリングに来る交流もあった。	地元の秋祭りにはヤブ(鬼)が事業所を訪れるなど馴染み深い交流を継続している。普段の散歩や会話をはじめ近隣の幼稚園児との定期的なふれあいや、児童福祉施設の子供たちとクリスマスには讃美歌を歌い共に楽しむなど世代を超えた交流を重ね地域に根差した親しみのある関係性を紡いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方と認知症の方が出会い、安心して暮らせる地域づくりを目的とした「RUN伴」に入居者が参加し、近隣を歩いた。レストランにて、月に1回「認知症予防カフェ」を開催し、認知症についての講演会や「呼吸法」等を行い、地域の方が参加している。1階のレストランにパンフレットを置き、問い合わせ対応出来る様心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を行い、入居者のサービス状況や事業所の取組み等を報告している。他事業所のサービスを利用している方の家族等、地域の方にも参加してもらい、参加者からの質問や意見はサービスに反映させ、サービス向上に努めている。	隔月開催の当会議では、地域代表者・行政関係者などの参加を得て、事故予防ミーティング報告・ケアプラン会議報告及び行事や近況報告がなされ、スライド上映や意見交換を行なっている。議事録には個々の様子や現状が丁寧に記載され、家族に配布し安心感につなげサービスの向上や運営に活かしている。	会議開催日を家族懇談会と合わせ家族参加を得る・多職種メンバーの参加を募り勉強会を兼ねるなど、毎回テーマを決めて様々な幅広い意見交換の機会となるよう更なる取り組みに期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	「平成30年西日本豪雨」の際も、事業所出来ること等、細かく連絡をとり、入浴支援を行った。運営に関して疑問があれば質問をしたり、報告をする等、機会があれば市町担当者に連絡している。又、認知症アドバイザー資格を持つ職員が、市が実施する地域住民向けの認知症理解講座に、講師として協力している。	日頃から報告・相談・手続きなどで密に連携し、職員が認知症アドバイザーとして講座を受け持つ他、毎月「認知症予防カフェ」を開催するなどオレンジプランに関する協力体制が築かれている。災害時には救援物資の支援拠点として地域貢献し、浴室を無料開放する入浴支援にもチームで取り組み絆を深めている。	

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム ベたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的な身体拘束廃止委員会の開催や内部研修やマニュアルの確認を実施し、職員同士の声掛けを行うようにしている。夜間のみ、戸締りの為施錠している(日中は行っていない)。</p> <p>バリデーション等を実施し、認知症ケアの専門知識を持つ職員を中心に、落ち着いた気持ちで穏やかに過ごせる様、入居者の精神面でのケアに努めている。</p>	<p>言葉による抑制も含めた身体拘束を行わない支援に向けて、定期的な身体拘束廃止委員会や研修で職員間の周知徹底を図っている。適正化に向けた方策を講じて個々の自由を奪うことなく安全面に配慮し、メンタルケアも含めた寄り添う支援に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内外部研修会において、虐待に関する定義や行為等を学習する機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内外部研修会において、権利擁護に関する制度等を学習する機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約又は改定等の際は、書面や口頭等で十分な説明を行い、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者のやりたい事、要望を聞き実行する目標を掲げ、家族にも意見をもらい、取り組んでいる。その取組みを、運営推進会議で報告し、参加者より意見を頂いている。苦情受付窓口の設置は、契約時に説明し、玄関前にも閲覧出来る様にしている。法人が運営する地域相談センターでは、地域住民や家族等が相談しやすい環境を整えるよう努めている。</p>	<p>主に面会等で家族他から意見・要望を伺い職員・関係者で検討し改善策につなげている。一階に家族及び地域住民が気軽に立ち寄れる相談センターを法人として設け、様々な声が届くよう工夫し細やかな対応に配慮しつつ地域活性化にも努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム べたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	「提案票」をもって職員より提案する機会を設けている。 定期的なミーティングを開催し、職員の意見を聞き、それらにより課題が見つかった際は、法人全体のケアの質の向上に活かしていけるよう努めている。 又、年に2回行う「目標管理シート」にて、「法人・施設等に対する要望」を自由記述できる欄を設けている。	定期的なミーティングをはじめ日頃から話し合う機会を多く持ち、個人面談でも意見などを聞き運営に反映させている。キャリア別の研修や外部研修・他事業所との交換研修を通じて職員のスキルアップに努め、目標管理シートに個人目標を定め達成度を測るなどのサポート体制が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を年2回以上行い、各職員が抱えている悩みや意見を聞く機会を設けている。 又、目標管理シートを使用する事で、各職員自身が目標を設定して、それを上司がサポートしながらキャリアアップ出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部では、キャリア別に段階を踏んで研修を行い、外部への研修には積極的に参加している。又、目標管理シートにおいて、自身が設定した目標の達成度や過程を、職員と一緒に確認や共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修会や法人全体での内部研修における各事業所による研究発表等に参加することで学び、サービスの質を深めている。 又、外部の施設職員の研修を受け入れ、サービスの質の向上に努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	「です・ます調」の丁寧語でコミュニケーションを図ったり、新規入居者の情報を職員間で確認している。利用契約に至るまでの期間に、管理者や計画作成担当者だけではなく、介護職員も自宅や病院等の他施設に伺い、話の場を確保したり、利用者が話しやすい環境となるよう努めている。		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目(グループホーム べたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前は家族等からも情報収集を行い、入居後の生活に反映出来るよう努めている。又、気になる点等は、入居開始前でも受け、早期解決を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	同法人の居宅介護支援事業所や小規模多機能ホームのケアマネジャーと共に相談したり、協力医の意見も確認する等、本当に必要なサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「できる・できない」、「好き・嫌い」、「得意・不得意」、「やってみたいこと」等をアセスメントし、入居者一人ひとりに無理のない範囲で出来ることを職員と一緒にやり、それらを、定期的に評価している。その際、利用者は職員と対話をし、互いにその時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の当施設での近況を細かく家族等に伝えるよう努めている。又、家族等に月に1度、日頃の当施設での様子や外出風景を写真に撮り、送付したり、家族等に来所していただく等、話し合う機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に利用していた商店への外出や地域の祭りへの参加等、計画、実施している。 併設の個別対応デイサービスの利用者と、日常的に交流しており、馴染みの関係を構築出来るよう努めている。 家族等の協力で、外泊や外食をする入居者もいる。 付き合いのあった方の訪問を、積極的に受け入れている。	面会者の来訪も多く、個々のライフストーリーや趣味嗜好を把握し、懐かしい思い出や旧知の関係性を大切にしたい支援に努めている。三味線や歌などのボランティアをはじめ、同施設内の個別対応デイサービスの利用者ともレクリエーションなどを通じて交流し馴染みの間柄を継続している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム ベたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操やレクリエーション、イベント等で、個別対応デイサービスの利用者とも交流する機会を設けている。 又、利用者同士の関係がスムーズに構築されるよう、ミーティング等で職員の意見を収集し、検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後も、当法人内の居宅介護支援事業所や地域相談センター、小規模多機能ホーム等において、家族等の相談を受け付ける等、経過をフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の言葉に耳を傾け、行動や表情からも思いを汲み取れるよう努めている。困難が生じた場合は、理念に立ち返り、入居者を主体とし、チームで検討し、取り組んでいる。 家族等が来所された時は、日常の生活を写真を見てもらい、伝えている。家族等からも継続して聞き取りを行い、思いの把握に努めている。	日常生活の中で、さりげない会話やボディメッセージから個々の思いを汲み取り「利用者の本当の心の声」を理解し、その内容を記し職員間で共有化を図っている。一人ひとりに合わせた対応に加え、生活リズムやペースに沿った居心地の良いケアを日々心がけ、家族の思いの把握にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に細かいアセスメントを実施するだけでなく、日常の会話からもこれまでの生活について把握し、家族等からも聞き取りを行い把握したことを、支援経過等にまとめて、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護日誌やケースファイルの日々の記録で共有している。主にケアプラン会議、事故予防ミーティング等において、現状の把握やチームで入居者へのケアに活かせるよう、共有に努めている。朝礼や夕礼、その他口頭での申し送りの実施している。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム べたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン会議で、入居者の希望や課題について検討し、家族等が来所時にその内容について話し合い、助言いただいている。</p> <p>会議前には、掲示スペースに職員の意見が書ける仕組みをとり、参加できない職員の意見も汲み取っている。</p> <p>課題に対する経過を記録し、モニタリングを行うことで、ケアプランに反映している。</p>	<p>職員が知り得た情報や家族・医療関係者などの意見を取り入れ、各々のニーズに沿ったケアプランを作成している。各職員は8種委員会に属し共に活動する中、細やかな経過記録や状態変化を見極めつつ定期的なモニタリングにて見直しを行ない、より良いプラン作りを重ねている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護日誌やケースファイル、疑問・質問記入表等に細かく記入し、ケアに活かしている。</p> <p>入居が開始し、まだ慣れずなかなか落ち着かれない入居者の言動や時間帯、夜間の不眠が続いた際の言動等についてのモニタリングを行い、入居者理解を深め、情報共有を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別対応デイサービスと共同しながら、交流の時間を設けたり、合同でイベントを開催する等、幅広く柔軟に支援を行っている。</p> <p>1階で開設しているレストランでの催しに参加し、食事やティータイムをして過ごしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の幼稚園児との交流や唄・三味線ボランティアによる演奏会、児童養護施設よりキャロリングの訪問を受け入れている。</p> <p>入居者の友人等が、面会に来ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医院の定期往診を月2回行ったり、協力歯科医院の訪問診療を必要時行っている。専門医の受診は、家族等の協力を得ているが、緊急時は当施設で対応している。協力医の24時間対応により、緊急時や夜間の体制を整えている。主治医は、本人の希望に応じている。</p>	<p>協力医の定期的な訪問診療や看護師の資格を有する職員を配置し、利用者の健康管理をしている。日々のバイタルチェック・水分摂取量などの把握、服薬管理や感染症予防に留意し体調コントロールに努めている。夜間連絡方法もマニュアル化され、緊急時にも迅速な対応で適切な処置に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム ベたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	非常勤で看護師を配置し、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報に関し、入居者や家族等の了承のもと、病院側に提供している。又、退院後の受け入れ体制を整えたり、病院側、特に地域連携室とのカンファレンス等を行い、コーディネートしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」を、入居者や家族等に説明し、同意を得ている。重度化した場合や終末期ケアを踏まえた研修の出席やミーティング等で職員と話し合い、考え方を深めている。又、職員は、入居者や家族等と終末期のあり方について、相談を行っている。	入居時に家族他に説明し、重度化した場合はドクターと共に3者で詳しく話し合いケアの方向性を見極め、それぞれのニーズに沿いつつ心を込めた支援に取り組んでいる。各々の思いに寄り添い医療のバックアップ体制のもとチームケアの充実に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、定期的に研修等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署と連絡を取り、指導・助言のもと防災訓練を定期的に行っている。又、警備会社と災害時のことに関し入居者や職員と、避難先について確認を行っている。	消防署のアドバイスを得ながら定期的に防災避難訓練を実施している。正しい避難ルートや防災機器の点検・緊急連絡網の確認など災害委員会を通じ職員間で意識を高めている。飲料水・簡易食・救援グッズなどのストックや地域ぐるみでの防災・減災活動に取り組み、災害時対策を強化している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム べたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いは、慎重に行っている。 入居者にとっての現実を評価することなく受け止めるバリデーションを行い、自尊心の回復につなげている。 一人ひとりの習慣や生活環境等を把握し、声掛けの配慮、入浴時や排泄時の羞恥心に対する配慮も心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し「不適切な言葉遣いマニュアル」を設け、礼節をわきまえた接遇や言葉遣いへの意識向上に努めている。バリデーションを活用し個々の思いを受け入れ共感して関わり、自尊心やプライバシーも護りつつ日々のケアの中で相互の信頼関係を紡いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が外出を希望している時は、出来る限り体制を整え付き添いをしたり、バリデーション技術を用い、訪室してマンツーマンで話を聞いたり、繰り返し説明する等、一人ひとりに合わせた対応を心がけ、満足のいく日常生活を送れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームとしての決まりごとはあるが、一人ひとりの生活リズムを考慮し、入居者のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者は、訪問美容を利用している。カット後は、ヘアセット、メイクアップがなされ、喜ばれている。季節に合った入居者の好みの服を職員と一緒に選び、着用出来るよう支援している。化粧水や乳液で、居室の鏡台や洗面台の鏡を見ながら肌を整えたり、眉毛をかいり口紅を塗ったり等、化粧やマニキュアを楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	法人の栄養士が献立を作成している。簡単な食事の準備・片付けは、職員と一緒にいたり、職員と一緒におやつ作りをされたり等、楽しんでいただいている。又、利用者の体型や状態に合わせた椅子に座っていただき、食事が食べ易いよう工夫している。	栄養価を併せ持つ旬の食材や彩りに配慮し、利用者のリクエストにも応えたメニュー作りに努めている。敬老会・クリスマス会・誕生日会など、スペシャルな味わいを楽しむ行事食やIFカフェでの食事会など、気分を変えた食事の機会を設けている。地域の作業所のパンの販売も利用者の楽しみのひとつとなっている。	

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム ベたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による栄養管理や、職員により食事量や水分摂取がチェック出来る体制を整えている。水分摂取量の減少時等には、協力医に確認している。 夜間のトイレの後等の飲水は、職員が声掛けをして、お茶をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行ったり、出来る限り入居者自身で行えるよう支援している。義歯のある入居者は、必ず外して口腔ケアを行っていただき、夜間は各々義歯洗浄剤に浸けて保管している。 又、病気等により口を開けにくくなった入居者の口腔ケアの方法は、協力歯科医に確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	当施設には3ヶ所にトイレがあり、車椅子でも対応できるスペースを確保している。入居者の状況に応じた配慮に努め、日中や夜間の排泄状況を確認しながら、リハビリパンツと夜間のみパットを使用したり、夜間はポータブルトイレを使用する等、一人ひとりの習慣や状況に合わせた柔軟な対応を心がけている。	個々の排泄データに基づき、パターンやタイミングを見計らいトイレでの排泄を促している。リハビリパンツにパッド対応など、それぞれのペースに合わせた適切な対応に努めている。歩行器使用で歩いたり、テレビ体操やレクなどで日中の活動量アップを心掛け、スムーズな排泄支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を摂取してもらう為に、細やかな声掛けや見守りを心がけている。 日曜日以外のほぼ毎日、併設の個別対応デイサービスへ移動し、交流の時間において、体操やレクリエーションを行い、身体を動かす機会を設けている。 又、出来る限り外出の機会を確保している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	個別に見守り、介助をしながら支援している。 基本的には午後からの入浴としており、順番は、入居者の希望や入浴することを受入れやすいタイミングや環境を検討し、支援している。	その日の心身状態に合わせ、なるべく個々の意向に沿い柔軟な対応で支援している。職員の提案で災害時には浴室を無料開放し地域貢献の一環として取り組んだ昨夏の事例もある。	

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム ベたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースや好みの把握に努め、入居者の状態に合わせ、休息をすすめる等行っている。 又、室温や湿度にも気を配っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師が中心となり、医師や薬剤師と情報を交換し、職員間で共有している。 又、誤薬や飲み忘れがないように、職員2名で服薬のチェックを行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>グループバリデーションでは、参加している入居者に役割があり、一人ひとり責任を持ち、取り組んでいる。 掃除・洗濯等は、出来る限り入居者自身で行うよう、声かけや見守りをしている。又、食事の片付けやティータイムのメニュー聞き取り等、一人ひとりが役割を持てるよう努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>体調や天候、感染症流行期等を考慮して、職員と一緒に外出し、希望に応えられるように努めている。又、家族の協力もある。 短時間でも、当施設周辺の散歩や他拠点への物品の返却等、外の空気に触れ、気分転換できるよう心がけている。 近くの公園への外出やドライブを兼ねて買い物へ出掛けることもある。</p>	<p>気分転換や外気浴を心掛け、出来る限り外出の機会を持ち、天気の良い日には職員と共に近くの公園への散歩や、買い物がてらドライブを楽しんでいる。市内の花見ポイントを車で回り四季を愛でるなど、一緒に季節を感じるひとときや思い出づくりにも取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>一人ひとりの能力に応じた対応をしている。お金を所持している入居者は、所持金額を出来る限り職員が把握している。 又、紛失した場合の家族の了承も得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム ベたにあ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持参している入居者を含め、希望があれば、自由に電話出来るようにしている。 手紙や葉書のやり取りを楽しみにしている入居者もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が作成した壁画や手芸作品を掲示し、季節に応じた空間作りをしている。又、トイレ等のお知らせは、入居者が混乱しないような表現やイラストを用いている。	季節の手作り作品を飾り落ち着いて寛げる居心地の良いリビングで、談笑や歌レクなどを楽しめる場となっている。同フロアにある個別対応デイサービスへの行き来も自由で、日中は一緒に過ごせるよう配慮している。上階のサービス付き高齢者住宅利用者との交流もあり憩いのスペースづくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファを置き、入居者同士が会話をしたり、くつろげるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室によって大きさや形が違い、また、本人が使い慣れた箆笥やベッド等の家具やテレビ、布団等を持ち込み、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。入居者自身が自身の部屋と認識する為の番号はやわらかい色使いとし、カーテンは各部屋で違えている。又、自身で取り組んだ作品等を飾っている。	それぞれ趣きのある個性を活かした居室であるよう心がけている。思い出の品々や使い慣れた木製のベッド・チェストなどの調度品に囲まれ、各居室でカーテンの色を変え識別しやすく配慮し、おしゃれや身だしなみを整えるなどゆっくり過ごせるスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	「できていたこと」、「難しくなっていること」、「この方法ならできること」等、評価し、入居者にあつた支援をしている。食事の準備や片付け、洗濯たたみ等、自身で出来ていることは行っていただけのように、個別の対応を心がけている。又、歩行器やポータブルトイレを使用していただくことで、出来る限り自立した生活が送れるよう努めている。		

V アウトカム項目(グループホーム ベたにあ) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームべたにあ

作成日 平成31年4月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	近隣店舗の職員に協力依頼をし、参加の了承を得ていたが、継続的な参加が難しい状況が生じた後より、運営推進会議の参加者が固定化している	当施設の取組みを、より多くの地域住民に認識してもらい、他職種メンバーの参加を募り、幅広い意見交換の機会とする。	開催日を家族懇談会や説明会等と合わせ家族の参加を得る。又、当事業所での取組みの報告や勉強会を兼ね、高齢者だけでなく、障害者、児童等の地域の福祉施設の方にも参加を募る。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。